

## 町田第一中学校の学校施設利用について

★広報まちだ 8月15日号



新しくなった町田第一中学校の外観

8月から  
利用開始

### 町田第一中学校が新しく 生まれ変わります

施設課 ☎724・2174

市では、2018年12月～2022年3月にかけて、町田第一中学校の改築工事を行っています。本工事では、築55年に及び既存の校舎などの老朽化問題の解消、特別支援教室を始めとした各教室間のレイアウトの改善、体育館・プール棟の床面と校舎棟の床面とのバリアフリー化の目的で、校舎棟の改築を行いました。8月から生徒による利用を開始し、2022年3月までに仮設校舎の解体工事、グラウンドの整備工事を行います。

## 基本コンセプト 地域と共に生涯にわたり協力し合い、共に成長していける身近な公共施設

### 設計のポイント① 地域とのつながり

#### ○交流エリアの設置

校舎2階昇降口に面する位置に、会議・学年集会・イベントに対応することができる交流ホールを設置しました。交流ホールと屋根付きの交流テラスとの間に設置されたサッシを開放することで、更に幅広い用途に活用できる大空間を作ることができます。

これらの交流エリアは、地域の方々の会議やサークル活動に利用することができ、地域で行きさまざまな活動に利用することで、学校と地域がつながる拠点となることが期待されています。

また中庭を囲む校舎の一部の廊下は、サッシを開放することで外部から直接中庭にアクセスすることができ、中庭にさまざまな活用の可能性をもたらしています。なお、開放の範囲・方法等については現在検討を進めています。

#### ○地域開放諸室の拡大

新校舎の多くを地域開放諸室として、地域の方々が利用できる範囲の拡大を検討しています。また、地域の方々が利用可能なエリアは校舎2階に集約することで、管理・運営しやすい施設となっています。



校舎中央に設置された交流ホール



中庭を囲む構造の校舎

※画像は工事中のものです

### 設計のポイント② 教育力の向上に寄与する施設

#### ○充実した教室等の環境

特別教室や図書室等が充実しており、中庭を配した採光へ配慮した構造から、各教室等には明るく開放的な雰囲気があります。徹底したバリアフリー化等により、特別支援学級と通常学級の交流がしやすくなっています。

### 設計のポイント③ 安全かつ防災機能を有する施設

#### ○防災・防犯対応

校舎は耐震構造となっているほか、武道場等の大空間を確保することで、災害時に避難所等として活用することができます。

また、校舎は行き止まりのない口の字型の構造にすることで、動線が明確になっており、防犯対策が取られています。



武道場の様子

### 設計のポイント④ 環境負荷低減に寄与する施設

#### ○環境に優しい施設

屋上緑化設備があり、環境に優しく、また生徒の環境学習の場となります。

#### ○ランニングコストの低減

高性能の断熱材を使用しているほか、屋上を緑化することによってヒートアイランド現象への対策を行っています。また、全照明をLED化し、効率の高い空調設備を使用することでランニングコストを低減しています。

★広報まちだ 9月15日号



朝夕、コオロギの声を聞く季節になりました。10羽ほどのエナガの群れが庭のザクロの木にやってきて、枝に付いた小さな虫を、これまた小さな藪でついばんでいきました。広袴不動尊のピンクの花の百日紅で少し遊んで、移動していきました。

さて、新型コロナウイルスの変異株の流行で心配されていた、小・中学校の2学期も始まりました。

町田第一中学校の2学期は、新しい校舎です。2019年からの工事がようやく終わり、先日、落成式を行いました。コロナ対策ということもあり、少人数での開催になりましたが、地域の方や一中の生徒さんにも加わっていただき、心のもったお祝いになりました。

先年の鶴川第一小学校建て替えと今回の町田第一中学校建て替えで、ここ10年程続いた、小・中学校の新設と老朽化による建て替えも、ここで一段落ということになりました。

昭和40年代から、町田市では市立学校の新設ラッシュがありました。それから40年、50年が経とうとしています。少子化の流れにより小・中学校の児童生徒の数は、今後20年で3割減少すると見込まれます。建物の老朽化と学級数の減少が一緒にやって来ます。

町田第一中学校は、これまで、地域開放施設として温水プールを備え、体育館等地域住民の利用に配慮した施設として整備し、運営してきましたが、これからは地域住民が地域の施設として使う「地域施設」としての位置づけをしています。そういう意味で「地域に支えられた地域の施設としての」学校＝「新たな学校づくり」計画の理念を先取りした形になりました。

学校建設には、多額の財源が必要になります。高度経済成長期には毎年1万人、人口が増えていました。当時は、毎年、市立小・中学校を建設していました。ただ、それを支える税収も人口増により、毎年増加していました。

これに対して、今後の20年間の「新たな学校づくり」では、老朽化への対応と再編成の所要額は2000億円以上と見込まれています。少子・高齢化時代、人口減少や財政収入の減などありますが、財源確保を含め、「新たな学校づくり」を進めていかねばなりません。



落成式の様子

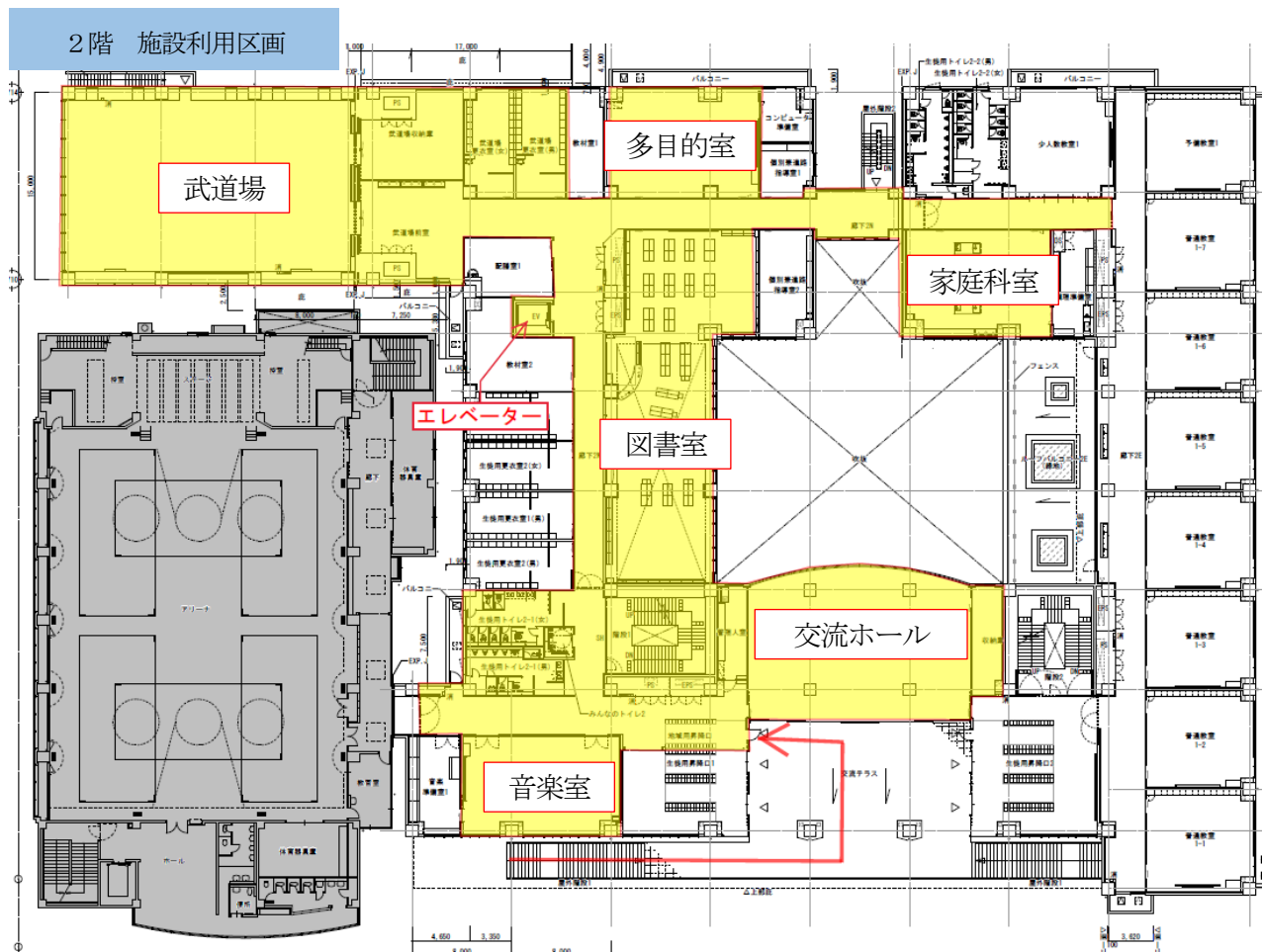
## 町田第一中学校 学校施設地域利用（案）

### ❖コンセプト❖

世代を限定しない、市民の自主的な”学び”をサポートする空間をめざす。

<個人利用エリア>：図書室

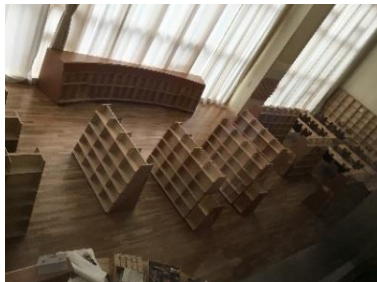
<団体利用エリア>：武道場、交流ホール、多目的室、音楽室、家庭科室



武道場



図書室



交流ホール

